

見たり、トランプしながらおしゃべりしたり…。特別なおもてなしではなく、家族の一員として同じ時間を共有することで、子どもたちは色々なことを感じています。

民泊後、子どもたちからは、「民泊体験で一番心に残っていることは、おじちゃんやおばちゃんとたくさん話したことです」「島の人が温かくて、この島から出るのが本当に寂しかった」など、心に触れたことで感動した声が多く寄せられています。

民泊で変わる、つながる

民泊の日程は、多くが2〜3日間で、決して長いものではありません。

しかし、民泊を終えた子どもたちからは、「魚を食べる時、漁師の方々のことを考えるようになった」「初対面の人とは全く話せない性格だったけど、民泊先の方や近所の方とふれあって人見知りがなくなって、自分の言いたいことをきちんと言えられるようになった」



になりました」など、たくさんの『嬉しい変化』の声が届いています。

受入家庭の皆さんからも「自分たちが当たり前と思っていた些細なことに大喜びし、感動することに私たちの方がはっとさせられた」「また会いに行くから元気でいてほしいと手紙がくる」と、元気を出して頑張らねばと思う」「友人が食事だけでも協力したいと野菜を持ってきてくれた。仲間と一緒に受入れるのも楽しい」といった感想をいただいています。民泊を受け入れ、地域に子どもたちの声が聞こえることで、近所の方から感謝されたり、体験や食事の話から他の民泊家庭の方と仲良くなったりといった、新たな『つながり』も生まれています。

子どもの数だけ出会いがあり、出会いの数だけ感動があります。子どもたちを中心として、そこに関わったみんなが元気になる。民泊にはそんな力があるのではないのでしょうか。

☆民泊受入れに興味がある方、まずはお気軽にご連絡ください。
☆2月末から3月上旬に民泊研修会を開催予定です。

■問い合わせ

商工観光課

☎0820(79)1003

感動☆島体験

受入れの流れ

③共同調理

家族でご飯を一緒に食べない子どもも多いと聞かれています。でも今日は準備からみんな一緒。メニューは大島ならではの家庭料理です。子どもたちは調理を通してお母さんの大変さ、食べ物大切さを実感します。



①入村式

まずはおあいさつ。これから待っている体験に、どの子ども達も期待と不安がいりまじり、とても緊張しています。「よう来たね」「今日からうちの子じゃけえね」の温かい声かけで子どもの表情が変わります。



④離村式

「来る前は不安だったけど、周防大島に来て本当に良かった」「まだ帰りたくない」周防大島を出発するころには、子どもたちはすっかり家族の一員。離れがたくて涙を流す子もいます。かけがえのない思い出をお土産に、子どもたちは帰路につきます。



②家業体験

釣りやみかんもぎだけでなく、布団敷き、薪割り、磯歩きだって大切な『体験』です。やり方を教えながら、色々な話をします。体験は交流のきっかけづくり。出来ることを楽しくやります。

